

## 第5章 聴覚障害

### 第1節 聴覚障害教育の指導の実践事例 高等部第3学年数学科「数学C」

#### 1 年間指導計画（2単位扱い）

月	単元名	授業時数 (実施時数)	指導目標等	実施内容
4月	1 ベクトル (1) 平面上のベクトル (20時間)	4 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解できる。</li> <li>・実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトルの学習に入る前に図形や演算等、既習事項について十分に復習を行った。</li> <li>・1学期中間考查では既習事項の確認およびベクトルに関する基礎基本の問題を中心に出題した。</li> <li>・11月中旬までにベクトルの学習を終える計画であったが、十分に理解させるのに時間がかかり、12月までずれ込んでしまった。</li> </ul>
5月		8 (8)		
6月		8 (8)		
7月	(2) ベクトルの応用 (11時間)	3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトルの内積及びその基本性質について理解できる。</li> <li>・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間の性質を見出したり多面的に考察したりすることができる。</li> </ul>	
9月		8 (8)		
10月	(3) 空間におけるベクトル(10時間)	8 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できる。</li> <li>・数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用することができる。</li> </ul>	
11月		8 (8)		
12月	2 平面上の曲線と複素数平面 (1) 2次曲線 (10時間)	4 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解できる。</li> <li>・放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実質、3学期になってから本単元の学習を始めたため時数が不足し、学習内容の精選が必要であった。</li> <li>・ICTを活用することでグラフを描く時間を短縮し、かつグラフの特性の理解を深めることができた。</li> <li>・複素数の演算や累乗根の概念を理解するためには、視覚的な情報を用いた指導の工夫が必要であった。</li> </ul>
1月	(2) 媒介変数表示と極座標 (8時間)	8 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲線の媒介変数表示について理解できる。</li> <li>・極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解できる。</li> </ul>	
2月	(3) 複素数と複素数平面 (11時間)	8 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積、及び商の図形的な意味を理解できる。</li> <li>・ド・モアブルの定理について理解できる。</li> <li>・複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察できる。</li> <li>・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて曲線を表すなどして、媒介変数や極座標及び複素数平面の考えを問題解決に活用できる。</li> </ul>	
3月		3 (3)		
	合計	70 (70)		



## 2 本指導案

高等部3年A組数学科「数学C」 学習指導案

日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日）  
第4校時 11:50～12:40  
場 所 高等部3年A組教室  
指導者 〇〇 〇〇

### 1 単元名 ベクトル「ベクトルの分解」

### 2 単元設定の理由

#### (1) 生徒観

本グループは3年生3名のグループで、高等学校に準ずる教育の教育課程で学習をしている一般学級の生徒である。各教科・科目は、習熟度別グループで編制している。生徒の共通コミュニケーション手段は手話のため、授業は手話が中心となるが、補助手段としてテレビ画像・黒板・ノート・プリントを使用し、情報が確認できる環境を整えている。さらに個々に iPad を所有しているため、学習支援アプリを使用して、課題を事前に確認したり宿題が提示されたりと、予習・復習の流れが定着しつつある。その中で生徒は、数学が分かるようになりたいという気持ちを持っており、指導者の手話の説明をよく見て理解しようとしたり、積極的に宿題に取り組む姿勢が見られる。

生徒の学習の状況は、基礎・基本の知識を生かして応用問題に自ら取り組める生徒、基礎的な事項を理解しているが応用問題にはアドバイスが必要な生徒、基礎的な計算方法や問題の内容理解について確認が必要な生徒がいるため、実態差及び学力差がある。一斉指導する場合は、3人が共通して理解できる内容を中心とし、基礎的な事項や問題に焦点を当てて取り扱っている。演習問題については、常に基本編と応用編の2つのレベルを準備し、数学の苦手な生徒が負担に感じないように、併せて得意な生徒には課題に合った問題が提示できるように配慮している。

分からない問題に対して、一人で考え込む傾向があり、解決に結び付かない状況が見られるため、分からないことがある場合は友達に尋ねてみることや互いに教え合うことを促している。その結果、全体の雰囲気が和み、互いに分からないところを教え合う雰囲気になっている。

#### (2) 単元観

ベクトルの学習は、これまでに学んできた平面図形、空間図形の性質、公式などを用いて展開するため、単元に関係する基本的な知識や計算力が必要不可欠である。そのため、ベクトルの学習に入るまでに基本的な内容を繰り返し学習して自信を持たせてから取り組むと、より効果的である。また、過去に学んだ公式を違う形で表現するなど、代入の仕方が複雑なものもある。生徒が分かりやすいように視覚教材を用いて、過去に学んだこととのつながりや、正しく代入して計算ができていくか丁寧に確認する必要がある。

本単元では、これまで学んできた平面図形、空間図形の性質、公式などを用いて、向きと大きさに注目した新しい図形の表現方法について学習する。これまでの学習で、図形の性質については知識として持っているものの、その知識を活用する点でつまずくことがある。つまり、代数の演算をすることはできても、図形の性質の理解に応用することにつながらないことがある。本授業では、大きさが0ではない2つのベクトル $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ が平行でないとき、任意のベクトルを $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ を用いて表す方法を学習する。

#### (3) 指導観

聴覚障害のある生徒には、イメージを持ちやすくするために具体物を操作したり、生活の中で身近に感じられる例を取り上げたりして説明すると理解が深まる。図形は視覚的にとらえやすい学習内容のため、聴覚障害のある生徒にとって取り組みやすい内容である。

ベクトルの分解は、進む方向を意識することが大切である。そこで、視覚教材を有効活用するだけでなく、生徒が普段から使っている身近な手話表現を例に挙げて、ベクトルのプラスの向き、マイナスの向きの違いについても理解させていく。ベクトルが表す向きと大きさを手話で説明する場合、距離と方向と大きさを明確に伝えることが大切となる。例えば、相手との距離が遠ければ手話表現は大きくなる。

ベクトルの学習を通して、生徒たちが普段使っている手話表現には向きや大きさがあることを視覚的、論理的に理解することも取り扱いつつ、ベクトルの向きとつなげ理解を深めていきたい。



### 3 生徒の実態

氏名	生活全般の実態	単元（題材）に関する実態
A	聴力レベルは右 105dB (48 dB)、左 102dB (52 dB) 授業中、家庭学習ともに自分から進んで取り組んでいる。 宿題や提出物は着実に提出する。	計算間違いも少なく、図形の問題も得意である。 説明や、文章の意味を理解し、自分から難しい問題に取り組もうとする。
B	聴力レベルは右 71dB (36 dB)、左 86dB (43 dB) 授業中、家庭学習ともに取り組んでいる。 宿題や提出物などの忘れ物が時々ある。	計算間違いも少なく、図形の問題も得意で、基本事項はよく理解できている。 難しい問題に挑戦する気持ちがある。
C	聴力レベルは右 130dB (25 dB)、左 110dB 宿題や指示を理解しているか、丁寧な確認が必要である。 提出物などの忘れ物が多く、理由等の確認に納得できれば授業に集中できる。	数学に対しての苦手意識があり、特に文章問題が苦手である。 一生懸命理解しようと取り組む様子が見られる。

### 4 単元の目標

#### (1) 共通目標

- ① 平面上のベクトルの概念を理解し、基本的な用語、記号を理解することができる。
- ② ベクトルの加法、減法、実数倍について理解し、それらの演算について数と同様の法則が成り立つことを理解することができる。
- ③ 図形的に定義したベクトルを、成分で表すことにより代数的に取り扱うことができる。
- ④ ベクトルの内積について知り、その基本性質を理解することができる。
- ⑤ ベクトルの平行・垂直について調べ、利用できる。

#### (2) 個人目標

氏名	単元（題材）に関する目標	（自立活動の目標）
A	ベクトルの基本的な知識や計算技能を身に付け、知識を活用して応用的な内容に取り組む。	目標を明確に定め、達成のために学習計画を立て、実行できるようにする。
B	ベクトルの基本的な知識や計算技能を身に付け、アドバイスを受けながら応用的な内容に取り組む。	達成可能な目標に向かい、着実に積み上げていく力を身に付ける。
C	繰り返し学習を行い、ベクトルの基本的な知識、計算技能を身に付ける。	分からないときに援助依頼が自分からできるようにする。

### 5 指導計画

「平面上のベクトル（20 時間扱い）」

- (1) 有向線分とベクトル・・・・・・・・・・ 3 時間
- (2) ベクトルの加法・減法・実数倍・・・・ 4 時間（本時 4 / 4）
- (3) ベクトルの成分・・・・・・・・・・ 5 時間
- (4) ベクトルの内積・・・・・・・・・・ 5 時間
- (5) 演習問題・・・・・・・・・・ 3 時間

### 6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見出し、問題を自立的、協同的に解決し、学習過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図る。

本時においては、ベクトルの加法・減法・実数倍を用いてベクトルを表現させることで一人一人の考えを引き出したい。解法を 1 つ見い出しても、他の解法はないか考えさせる。自分の考えを他者に伝えること、他者の考えから自分の考えを深めることをとおして主体的な学びを実現させたい。1 つの解答について複数の解法が考えられる問題は、ひらめきと気づきを導くために有効な学習内容であると考え。

### 7 本時の構成

#### (1) 本時の目標

- ② ベクトルは始点と終点が同じならば、等しいベクトルであることを理解しているか。（知識及び技能）
- ② 1 つのベクトルを表すための複数の解法を考えることができたか。（思考力、判断力、表現力等）
- ③ 自分の解法を他者にわかるように伝えられたか。他者の解法を理解することができたか。また、協同して新たな解法を見い出そうとしたか。（学びに向かう力、人間性等）



(2) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点（指導の手だて・評価の観点）	備考
導入 5分	ベクトルが等しくなる条件を確認する。  〔等しいベクトル〕 2つのベクトル $\vec{a}$ , $\vec{b}$ の向きが同じで、大きさが等しいとき、ベクトル $\vec{a}$ と $\vec{b}$ は等しいと言える。	○等しいベクトルの条件を提示する。 タブレットの学習支援アプリ（以下、ロイロノート）で、前回の授業で配布した資料を取り出し、テレビモニターに表示する。（指導者） 生徒タブレットのロイロノートを利用して前回の授業で配布された資料を表示させる。（生徒）  ◇ベクトルが等しくなる条件を覚えていたか。 生徒タブレットに表示されている前回の資料を確認させながら、条件を手話などで復唱させる。	タブレット（各自1台）
展開 30分	<p>〔問題〕（ベクトルの分解）</p> <p>右の正六角形 ABCDEF において<math>\overrightarrow{AB} = \vec{a}</math>, <math>\overrightarrow{AF} = \vec{b}</math>とする。このとき、次のベクトルを<math>\vec{a}</math>, <math>\vec{b}</math>を用いて表せ。</p> <p>(1)<math>\overrightarrow{AO}</math> (2)<math>\overrightarrow{BO}</math></p> <p>発問 1 (1)<math>\vec{a}</math>と<math>\vec{b}</math>は等しいベクトルと言えますか、言えません。また、それは何故ですか。 (2)<math>\vec{a}</math>, <math>\vec{b}</math>それぞれと等しいベクトルはどれですか。</p> <p>発問 2 「(1)、(2)のベクトルは<math>\vec{a}</math>, <math>\vec{b}</math>を用いてそれぞれどのように表せますか。」</p>	 <p>○ベクトルは大きさだけでは等しいとは言えないことを確認する。なぜ等しいと言えないのか、その理由まで答えさせる。 ◇ベクトルが等しいと言える条件を理解しているか。</p> <p>○図の中から<math>\vec{a}</math>と等しいベクトル、<math>\vec{b}</math>と等しいベクトルはどれか、それぞれ質問する。 図は、指導者タブレットから生徒タブレットに配送する。（指導者） 生徒のロイロノートに配布された図に、等しいベクトルを赤で示すように指導する。（生徒） 生徒タブレットのロイロノートに記述された等しいベクトルの箇所（赤で示した部分）をテレビモニターに映す。（生徒） 他の生徒のタブレットに書き込まれた等しいベクトルと自分の解答を比較する。異なる場合は、理由を述べさせる。 指導者が模範解答図をテレビモニターに表示する。 ◇<math>\vec{a}</math>と等しいベクトル、<math>\vec{b}</math>と等しいベクトルがそれぞれわかったか。 前回の授業で用いた資料を再度表示し、等しいベクトルの条件を確認する。 ○(1)、(2)で始点から終点へはどのような経路「行き方」があるのか生徒に考えさせる。 「行き方」について説明するときに、線をたどること、点A～Fのどれかを通らなければならないこと、いくつかのルートがあることをはっきり認識させる。 ロイロノートに表示された図に色分けしたペンツールで行き方の例を示す。</p>	



	<p>発問3「始点から終点に向かう行き方は1通りだけでしょうか。」</p> <p>【解答例】</p> <p>ア <math>\overrightarrow{BD} = \overrightarrow{BE} + \overrightarrow{ED}</math>  <math>= \vec{a} + 2\vec{b}</math></p> <p>イ <math>\overrightarrow{BD} = \overrightarrow{AE}</math>  <math>= \overrightarrow{AO} + \overrightarrow{OE}</math>  <math>= (\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AF}) + \overrightarrow{AF}</math>  <math>= \vec{a} + 2\vec{b}</math></p>	<p>(1)に取り組み、ロイロノートに記述させる。生徒のロイロノートをテレビモニターに表示し、他の行き方があるか確認する。</p> <p>○3分後、どのような行き方があるか、一人の生徒タブレットをテレビモニターに表示させて発表させる。</p> <p>(1)を<math>\vec{a}</math>と<math>\vec{b}</math>で表わせたか、ロイロノートで確認する。</p> <p>同様に、(2)の<math>\overrightarrow{BD}</math>を解かせるときに(1)の結果を用いても良いことを確認する。</p> <p>○5分後、どのような行き方があるか、一人の生徒タブレットをテレビモニターに表示させて発表させる。</p> <p>(2)を<math>\vec{a}</math>と<math>\vec{b}</math>で表わせたか、ロイロノートで確認する。</p> <p>◇生徒の発表を、関心をもって見ることはできたか。</p> <p>◇(1)、(2)の問題をそれぞれ<math>\vec{a}</math>, <math>\vec{b}</math>を用いて表すことができたか。</p> <p>○行き方が1つでないことに、気づかせる。もし他の行き方があると気づいた生徒がいた場合はロイロノートをテレビモニターに表示させて発表させる。</p> <p>○間違った解答があれば、なぜ、間違った記述をしているのか、生徒のロイロノートをテレビモニターに表示させながら、図示し、間違いに気づかせる。</p> <p>○生徒が他の行き方を見つけられなかった場合は、他の行き方を指導者が提案してみる。指導者の提案が正しいかどうか議論させる。</p> <p>◇行き方が1つではないことが理解できたか。</p> <p>いくつかの行き方を示し、ベクトル式が同じになることを確認させる。</p> <p>◇始点と終点が同じなら、結果が同じになることが理解できたか。</p>	
まとめ 15分	演習問題を行う。	<p>○習熟度にあわせた2種類のプリントを作り、生徒それぞれにあったプリントを生徒のロイロノートに配布（送信）する。</p> <p>○机間巡視を行う。困っている生徒がいたら、前回の授業で用いた資料をテレビモニターに映し、復習する。</p> <p>◇問題を解くことができたか。</p> <p>問題が解けなかった場合は、宿題とし、ロイロノートで解答を提出させるようにする。</p>	

(凡例)

○：教師の動き、◇：評価の観点



## 8 本時の評価

### (1) 生徒の学習評価

- ・ベクトルが等しくなる条件がわかったか。
- ・ベクトルの表し方について理解できたか。
- ・始点と終点と同じであれば結果は同じであることを理解し、複数の方法を見い出すことができたか。

### (2) 教師の授業の評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

#### ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態等）について

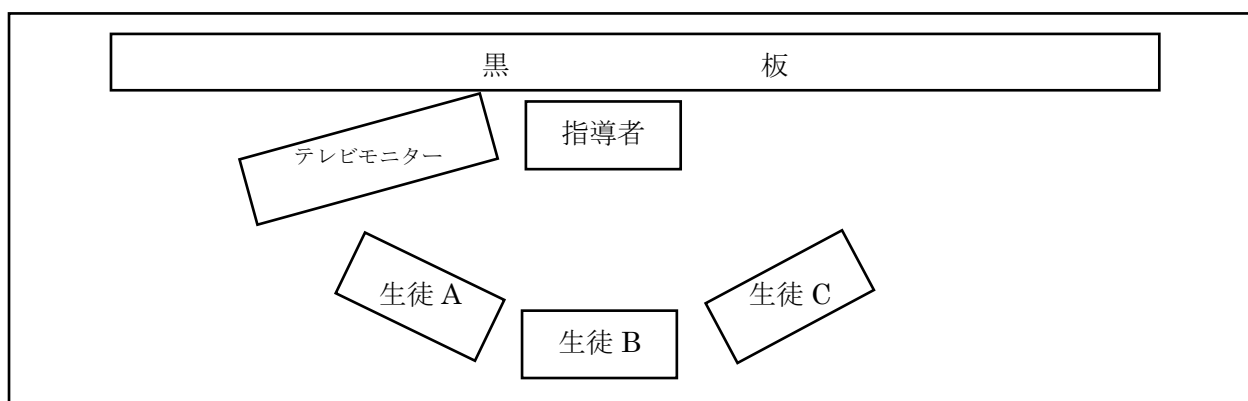
- ・前回の授業で用いた資料を利用し、ベクトルの特徴を十分に理解させることができたか。
- ・ベクトルの表し方を理解するために、ベクトルが等しいこと、始点と終点と同じであれば複数の方法があることを示すことができたか。
- ・生徒が発表し、話し合う時間を十分に確保できたか。
- ・答えは1つだが、答えを導く過程は様々な方法があることを、数学を学ぶ上で役立てられたか。

#### イ 教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）について

- ・タブレットで提示している図を活用できていたか。
- ・生徒が活動の中で生徒用タブレットを用いて生徒同士や、教師と関わり、協力する場面を設定できたか。
- ・始点と終点と同じであれば複数の方法を導けるような発問ができたか。

## 9 備考（配置図、準備物、教材、参考資料等）

### (1) 配置図



- ・生徒の座席はお互いの発言（手話）や表情が見えるように配慮する。

### (2) 準備物、教材

- ・教科書：高等学校「数学C」
- ・タブレット：指導者用タブレット（1台）、生徒用タブレット（3台）
- ・テレビモニター
- ・ソフトウェア：ロイロノート（学習支援アプリ）



### 3 略指導案

#### 小学部第2学年 国語科 学習指導案

1 単元名 「ようすをあらわすことば」

2 日 時 令和〇〇年〇月〇〇日（〇曜日） 第〇校時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

3 場 所 小学部2年〇組教室

4 単元設定の理由

本時では「ようすをあらわすことば」について考え、様々な表現があることを学習する。「ようすをあらわすことば」には、「①言葉の響きによって様子を表す言葉」、「②どれくらいかを表す言葉」、「③たとえを使って様子を表す言葉」の3種類がある。言葉にはいろいろな働きがあり、働きによって分類されることを知ることは今後、言葉の学習を進めていく上での基礎となる。

聴覚障害児にとって「様子を言葉で表すこと」、「言葉から様子を想像すること」はとても大切な学習である。擬音を用いる擬態語について理解を深めるためには、画像等の視覚情報に加え、文字、手話、体を使った表現等、様々な方法で指導する必要がある。

5 指導計画（全5時間扱い）

- (1) 写真を見て雨の様子を表す言葉を考えよう・・・1時間
- (2) 「ようすを表す言葉」を分類して整理しよう・・・2時間
- (3) 絵を見て様子を表す言葉を使った文を作ろう・・・1時間
- (4) 3種類の「ようすを表す言葉」を使って表現しよう・・・1時間（本時）

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

聴覚障害児の学習に視覚情報は欠かせない。教室内に学習のヒントとなる掲示物を効果的に配置し、文を作るときなど、児童自ら情報を得るようにさせたい。また、「ようすを表す言葉」の学習等では、例を1つ示すとそれに倣って表現する傾向がみられる。パターン化することより、友達の発表から自分の思考を変化させる柔軟さを養いたい。


7 本時の目標

- (1) 語と語のつながりに注意して、文を書くことができる。（思考力、判断力、表現力等）
- (2) 写真や動画を見て、様子を表す言葉を考え、3種類の様子を表す言葉を理解することができる。（学びに向かう力、人間性等）

8 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	備 考
導入 10分	<p>・あいさつ</p> <p>〔質問〕「ようすを表す言葉」にはいくつの種類がありましたか。また、次の言葉はどの種類のものですか。</p> <p>【例文】『鳥が <span style="border: 1px solid black; padding: 0 10px;"> </span> 飛んでいる。』</p> <p>〔回答〕</p> <p>「バサバサ」、「スーっと」、「ガンガン」</p> <p>→①言葉の響きによって様子を表す言葉</p> <p>「翼を大きく広げて」、「かっこよく」、</p> <p>「時速 60km で」→②どれくらいかを表す言葉</p> <p>「飛行機のように」、「グライダーみたいに」、「王者のように」</p> <p>→③たとえを使って表す言葉</p>	<p>・既習事項の復習として教員が言葉を書いた短冊を示す。</p> <div data-bbox="922 1534 1241 1747" data-label="Image"> </div> <p>・「ようすを表す言葉」3種類を3色の色画用紙に1つずつ書き、裏面にマグネットをつけて黒板に掲示する。色による分別をとおして視覚的に理解を促す。</p> <p>◇教員が示した言葉を3種類に分別することができたか。</p>	<p>・マグネット</p> <p>・短冊</p>



<p>展開 30分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画を見てその様子を言葉で表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画は児童が興味、関心をもち、かつ様子を表す言葉が見つけやすいものを用意する。</li> </ul> <div data-bbox="359 248 1302 613"> <p>〔課題〕 噴水の動画を見て、「ようすをあらわすことば」を使った文をつくろう。</p> <p>【例文】 『水が <input type="text"/> ふき出している。』</p> <p>〔予想される回答〕 ②強く、②高く、②きれいに、③火山のように、③踊っているように、③爆発したみたいに</p> </div> <div data-bbox="877 271 1287 537">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビモニター</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考えた表現を短冊に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に3枚ずつ短冊を配り、各自に書かせる。</li> <li>・さらに書きたい児童には短冊を追加して配布する。</li> <li>・全員で1つ1つの短冊を3種類に分類する。</li> <li>◇主体的に表現を考えようとしていたか。</li> <li>◇適切に表現できたか。</li> </ul> <div data-bbox="359 846 1287 1021"> <p>〔追加課題〕 「①言葉の響きによって様子を表す言葉」をみんなで考えよう。</p> <p>〔予想される回答〕 ①ジャブジャブ、①バシャバシャ、①ドッカーンドカーン、①ザーザー</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短冊</li> </ul>
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3種類の「ようすを表す言葉」を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで考えた言葉を振り返り、得意な表現、不得意な表現があることに気づかせる。</li> <li>・文を作るとき <input type="text"/> の前と後ろに合わせて語を変化させなければならないことを説明する。</li> <li>◇3種類の「ようすを表す言葉」を具体的な表現をとおして理解できたか。</li> <li>◇「ようすを表す言葉」を自分の言葉で表現できたか。また、友達の表現を聞いてイメージができたか。</li> </ul>	

## 9 準備

テレビモニター、写真、動画、短冊（発表用）、マグネット

## 10 本時の評価

### (1) 児童の学習評価

- ・写真や動画を見て、様子を表す言葉を考え、3種類の様子を表す言葉を理解することができたか。（主体的に学習に取り組む態度）
- ・語と語のつながりに注意して、文を書くことができたか。（思考、判断、表現）

### (2) 教師の指導評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

- ・児童が写真や動画に興味をもち、主体的に様子を表そうとするように指導できたか。
- ・児童が自分の意見を発表したり、友達の発表を聞いたりさせることで様子のイメージを共有させることができたか。



## 第2節 自立活動指導の実践事例 中学部（一般学級）

### 自立活動 実態把握の流れ（流れ図）

学校・学部・学年	埼玉県立〇〇学校 中学部 第3学年
障害の種類・程度や状態等	聴覚障害（人工内耳を装用）
事例の概要	様々なコミュニケーション方法を習得し、周囲の状況や相手の立場に応じたコミュニケーション力を身につけるための指導

#### ① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

- ・生後8か月で聴覚障害と診断され、その後まもなく人工内耳の装用を開始した。特別支援学校（聴覚障害）の乳幼児教育相談を定期的に受け、幼稚部に入學した。幼稚部卒業後、定期的に教育相談を受けながら地域の小学校へ進学した。中学校は特別支援学校（聴覚障害）の中学部に入學し、入學以降は寄宿舎に入舎している。
- ・体調不良の際に耳鳴りやめまいが起こって聴力が低下することがある。
- ・普段は聴覚を活用しながら手話を用いてコミュニケーションをとっている。手話がわからない人と接する際は、口話や筆談を併用して状況に応じた使い分けができる。
- ・筆談をする際に、文章表記を誤ってしまうことで誤解が起こることがある。
- ・文章表記や読解といった書記日本語に苦手意識があるため、手話がわからない聞こえる人とコミュニケーションをとる際に消極的になってしまうことがある。
- ・人工内耳を装用し、視覚と聴覚を活用しながら周囲の情報を収集している。
- ・中学部卒業後は特別支援学校（聴覚障害）の高等部への進学を希望している。高等部卒業後を意識して、筆談や発音といったコミュニケーション学習に積極的に取り組んでいる。

#### ②-1 収集した情報（①）を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・耳鳴りやめまいが起こって聴力が低下することがある。	・書記日本語に苦手意識があり、手話がわからない聞こえる人と筆談をすることに不安を感じている。	・手話がわからない聞こえる人とのコミュニケーションをとる際に消極的になることがある。	・視覚と聴覚を活用しながら周囲の情報を得ている。		・聴覚を活用しながら手話でコミュニケーションをとっている。 ・手話がわからない人と接する際には口話を使っている。 ・筆談で誤解が起こることがある。

#### ②-2 収集した情報（①）を学習上又は生活上の困難、これまでの学習の習得状況の視点から整理する段階

（できていること）

- ・人工内耳を活用しながら視覚と聴覚を用いて周囲の情報を収集することができる。（環）
  - ・高等部卒業後の社会参加を意識しており、コミュニケーション学習に意欲的である。（人・コ）
- （困難さに関すること）
- ・手話がわからない聞こえる人とコミュニケーションをとる際に消極的になってしまう。（心・人）
  - ・書記日本語に苦手意識があり、筆談でのコミュニケーションに不安を感じている。（心・コ）
  - ・筆談でのコミュニケーションの際に、文章表記や読解を誤ってしまい誤解が起こることがある。（コ）

※各項目の末尾の（ ）は、②-1における自立活動の区分を示している。

#### ②-3 収集した情報（①）を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

- ・聞こえる人と会話をする際にも筆談や口話を用いて積極的にコミュニケーションができる。（心、人、環）
- ・様々なコミュニケーション手段を習得し、状況に応じて手話や口話、筆談を使い分けてコミュニケーションが取れる。（人、コ）



③ ①をもとに②－１、②－２、②－３で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書記日本語を正しく表記する力や内容を正確に読み取る読解力を身につける。(コ)</li> <li>・書記日本語に苦手意識があるため、手話がわからない聞こえる人と接する際に消極的になってしまう。(心・コ)</li> <li>・周囲の状況や相手の立場を理解し、その場に応じたコミュニケーション方法を選択する力を身につける。(人・コ)</li> </ul>

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<p>日本語を正確に表記する文章力や読解力を身につけることで、日本語に対する苦手意識が薄れ、自信を持って手話がわからない人と筆談をすることができるようになると考える。そして、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を身につけることができる。相手の思いを正確に理解することができるようになれば、相手の状況や立場を理解することにもつながる。周囲の状況を正確に理解することで、その場にふさわしいコミュニケーション方法を選択できるようになる。したがって、中心的な課題を「様々なコミュニケーション方法の習得」と「周囲の状況や相手の立場に応じてコミュニケーション方法を選択する力の習得」とする。対象生徒の場合は、「書記日本語の文章力と読解力に関すること」や「発音に関すること」を関連付けながら指導を行うことが必要である。</p>

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を示す段階
	日本語の文法や発音を知り、自分の主張を正確に相手に伝える力と相手の主張を正確に理解する力を身につけ、状況に応じて手話がわからない聞こえる人とも積極的にコミュニケーションをとれるようにする。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	⑥ ⑤の指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。		(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント
<p>(健) (4) と (環) (4) を関連付けて設定した具体的な指導内容がアである。視覚や聴覚といった感覚を総合的に活用し、周囲の環境を正確に把握する力を身につける。周囲の環境を把握し、その状況に応じたコミュニケーション方法を獲得していく。(心) (3) と (人) (2) と (コ) (5) を関連付けて設定した具体的な指導内容がイとウである。正しい日本語の文法を習得したり、日常生活で用いられる表現について口話を用いて練習したりすることで、手話がわからない聞こえる人とも自信を持ってコミュニケーションをとることができるようになる。 (人) (2) と (環) (4) と (コ) (4) を関連付けて設定した具体的な指導内容がエである。さまざまなコミュニケーション方法を習得したのち、状況や相手の立場に応じて方法を適切に選択する力を養っていく。上記のとおり系統的な指導を目指す。</p>

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	⑧ 具体的な指導内容を設定する段階			
	ア 視覚や聴覚を活用し、周囲の情報を正確に把握する。	イ 筆談をする際に誤解が起こらないよう正しい日本語文法でやりとりをする。	ウ 日常生活で用いられる挨拶や敬語表現の言いまわしを身につける。	エ さまざまな場面を設定し、コミュニケーション方法を考え、選択する。



### 第3節 一人の指導に焦点を当てた実践事例 小学部1学年 B児

#### 1 教育支援プランA（個別の教育支援計画）

特別な教育的ニーズ	<p>本児は現在①手話でコミュニケーションを図るが、手話のみでは状況理解が難しい②自分の感情をコントロールしたり、気持ちを分かるように表現したりすることが難しい面があり、絵やカードを使った支援が必要な状態である。</p> <p>従って、①視覚的情報を活用して語彙・会話の増加を目指す②日常生活の中で自分の気持ちと大切に付き合うなどの支援が必要である。</p> <p>支援に当たっては①目標をスモールステップで設定して成就感を味わえるようにする②日常会話の中で場面に応じて気持ちを表現する言葉の選択肢を広げる③家庭との十分な連携を図るなどの配慮が必要である。</p>			
本人・保護者の願い	<p>集中力や落ち着きを継続し、相手の気持ちを考えて行動できるようになってほしい。謝るだけで終わらないように反省し、理解ができるようになってほしい。</p>			
合理的配慮の内容	<p>視覚的に情報が得られるように伝える際に配慮する。</p>			
教育機関の支援		目標・機関名	支援内容	評価
	所属校	自分の気持ちを伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵日記を書いたり、感想発表をしたりする活動を取り入れる。</li> <li>・様々なコミュニケーション手段を知り、自分にあった伝え方を使えるようにする。</li> <li>・楽しいと思う経験を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日絵日記に思い出を書き、内容について教員や友だちに伝えることができた。</li> <li>・手話だけではなく自ら劇化したり絵にしたりなど伝え方を工夫することができた。</li> </ul>

#### 2 教育支援プランB（個別の指導計画）

指導方針	国語や生活、自立活動などの教科学習を通して、相手の気持ちを考え、自分の思いをことばにして伝える力が身につくように指導・支援する。		
指 導 に 結 び つ く 実 態			
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法（手だて）	評価
生活 道徳 特別活動	基本的な生活習慣やマナー（挨拶や態度）を身につける。	・挨拶ができるようにする。 ・視覚的教材を用いて、良い例・ダメな例を挙げ、どちらが良いか考え、善い行いができるようにする。	・毎日の生活の中で、基本的な挨拶ができるようになっている。 ・良し悪しの判断力が少しずつ身に付き、自ら反省したり、友達に注意したりすることができた。

#### 3 年間指導計画

月	授業名	授業時数	授業目標	評価
10月	「気持ちのよいふるまいをみにつけよう」	3	掃除や給食など様々な場面でのマナーについて考え、身だしなみや作法などを見て、良し悪しの判断をすることで、自らの行いを振り返る経験をする。	食べ方や掃除の仕方など毎日の生活の中で気を付けようとする意識が育った。
11月	「自分でやることはしっかりとやろう」	3	オリンピックの選手に興味を持ち、強い体・心をつくるための方法に気づき、自ら目標を立て、健康や安全に気を付けようとする心情を育てる。	運動への取り組み姿勢が変わり、生活の中で怪我や病気に気を付けるようになった。
12月	「冬休みのめあてを立てよう」	2	健康や安全に気を付けながら過ごすために必要なことについて考え、目標を立てることで、楽しい冬休みを過ごすことができることに気づけるようにする。	手洗いやうがい、運動を毎日するなど自ら考え、目標を立てることができた。



## 4 ポイントを絞った指導案

小学部第1学年 道徳 学習指導案

日 時 令和〇〇年11月1日（火）  
第4校時 11:40～12:25  
場 所 小学部1年A組教室  
指導者 鈴木 太郎

### 1 単元名 「げんきなからだをつくる」

### 2 単元設定の理由

本校の1年生は全員が毎日元気に通い、学校生活を過ごしている。しかし、学校生活に慣れてきたことから、健康や安全に対する意識の弱さが目立つようになり、手洗いうがいをする習慣があまりみられない。これから風邪が流行る時期に入るため、健康や安全に対する意識を高め、11月のマラソン大会に備えていきたい。そのために、基本的な生活習慣を身につけることの必要性を感じ、健康や安全に気をつけながら、目標に向かって努力しようとする姿勢を育てたい。

### 3 抽出児童の実態

氏名（記号）	単元（題材）にかかわる実態	合理的配慮の実施内容
B児	安全に対する注意力が弱く、前を見ないで走ったり、車に不用意に近づいたり、友達とふざけ過ぎて怪我をさせて（して）しまったりすることがある。また、喘息の持病があるため、無理をせずに自己管理できるよう指導中である。	・手話での説明だけでなく、パワーポイントやイラストカードなど視覚的教材を活用する。

### 4 本時の学習

#### （1）共通目標

オリンピックの選手のように元気な体を作るための方法に気づき、自ら目標を立てて、健康や安全に気を付けようとする姿勢を育てる。

#### （2）個人目標（B児）

オリンピックの選手に興味を持ち、どうしてそんなに元気な体をしているのか考えられるようにする。これを通して、自分のこれまでの生活を振り返り、元気な体をつくるために必要なことは何かを考えて目標を立て、健康や安全に気を付けようとする意識を持てるようにする。

#### （3）展開

配時	学習内容 (児童生徒の活動)	○教員の指導 ※指導の意図（ねらい）	特筆すべき配慮
導入 1 0 分	今日の目当ての確認  げんきなからだとは？	「げんきなからだをもつ人たちをしろ」  ○展開につなげられるようなやり取りをする。 ・11月だね。だんだん寒くなってきて、もう少しで冬になるね。先週は学校に来なかったお友達もいたね。どうしてかな。	・黒板に目当てカードを貼る。 ・パワーポイントにイラストを提示して、発言を引き出せるようにする。



		<p>・学校を休まずに毎日元氣に来るにはどうしたらいいかな。</p>	
展開 30分	げんきなからだをもつひと	<p>○オリンピックに関する新聞の切り抜きを読む。</p> <p>・夏休みに開かれたオリンピックを知っているかな。</p> <p>○表彰台に立っている選手が持っているメダルや表情、からだつきを見せる。</p> <p>・何を持っているのかな？選手はどんな表情をしているかな？また、どんなからだをしているかな。</p> <p>○選手が競技をしている時の動画をみせる。</p> <p>・この選手がメダルをとるためにがんばったことは何か。</p> <p>・熱を出したり、怪我をしてしまったりしたら、メダルは取れるのかな。</p>	<p>・事前に校内掲示板に新聞の切り抜きを掲示しておく。</p> <p>・身近にあるものを取り上げる。</p> <p>・表彰台に立っている選手の写真をパワーポイントに提示する。</p> <p>・実際にメダルをかけさせて、選手の気持ちを想像できるようにする。</p> <p>・毎日元氣に学校に来ることは、選手と同じように病気や怪我をしないように気をつけることと同じだということに気づかせる。</p> <p>・マラソン大会に対する目標意識も高められるようにする。</p>
まとめ 5分	げんきなからだをもつために	<p>○元氣なからだをもつために目標を立てる。</p> <p>・選手達のように、みんなが元氣なからだになるにはどうしたらいいかな。</p> <p>・寒くなってきた、風邪をひきやすくなっています。どんなことに気をつけて過ごしたらいいかな。</p> <p>・元氣なからだになるために、クラス全体の目標を決めよう。</p>	<p>・イラストカードを掲示し、気をつけるべきことに気づかせる。</p> <p>・児童の発言の中から、クラス全体の11月の目標を立てられるようにする。</p>

## 5 備考

(座席の配慮)

- ・お互いの発言(手話)が見えるように、座席は馬蹄型に配置する。

(準備した教材)

- ・大型テレビ
- ・ノートパソコン
- ・パワーポイント
- ・イラストカード
- ・新聞の切り抜き
- ・手製メダル